

<主な出土遺物>

今年度の調査では、土師器、須恵器、石製品（砥石・勾玉・管玉など）、土製品（紡錘車・ふいごの羽口・勾玉・土玉など）、鉄製品（刀子・鋏先・鎌・鉄鏝・錫杖状鉄製品など）が出土しています。

特に注目される遺物として、飛鳥時代の竪穴住居跡から石製勾玉と管玉、奈良時代の竪穴住居跡から土製勾玉が、平安時代の竪穴住居跡からは「墨書土器」がみつかります。

「墨書土器」は墨で字が書かれた土器のことで、今回の調査では、一つの竪穴住居跡から3点出土しています。文字を書くこと・読むことができた人が、平安時代のこの土地にいたのだと思われまます。



墨書土器（土師器高台付坏）

600 7世紀	飛鳥時代 ●蝦夷と呼ばれた人々の集落の増加 ●末期古墳がつくられ始める	田面木平(1) 鹿島沢古墳	●韓国から伝わった大刀の柄頭 丹後平古墳群 7~8世紀	645 大化の改新 ●律令政治が始まる
700 8世紀	奈良時代 阿光坊古墳(おいらせ町) ●集落数が減少する	酒美平・丹後平古墳群 櫛引		701 律令国家が成立 724 多賀城創建 794 都を平安京に移す
800 9世紀	811 文室綿麻呂が馬淵川流域に侵攻する	岩ノ沢平 牛ヶ沢(4)・殿見	●律令祭祀に使われた土馬 岩ノ沢平遺跡 9世紀	802 坂上田村麻呂が胆沢城を築く
900 10世紀	●鉄生産の開始、製塩の拡大 ●五所川原須恵器生産開始 ●環濠集落が出現する	大仏 上七崎・林ノ前	●藤原氏の勢力拡大	935 承平・天慶の乱おこる ●武士団の成長
1000 11世紀	五所川原須恵器窯跡 高屋敷館跡(青森市)			1051 前九年合戦おこる 1083 後三年合戦おこる
1100 12世紀	●南部光行が糠部郡を襲り、入部したという			●平氏の台頭、源平争乱 1192 源頼朝が征夷大将軍となる

八戸市埋蔵文化財センター

是川縄文館

TEL:0178-38-9511  
http://www.korekawa-jomon.jp/

田面木遺跡 平成27年度発掘調査 現地説明会資料

平成27年10月3日(土)13:30~14:30

八戸市埋蔵文化財センター-是川縄文館

<調査概要>

調査目的：長芋・ごぼう作付けによる

調査面積：約2,000㎡

調査期間：平成27年7月1日~10月31日(予定) 調査主体：八戸市教育委員会 是川縄文館

<田面木遺跡について>

馬淵川右岸の標高25~50mの丘陵地に立地します。

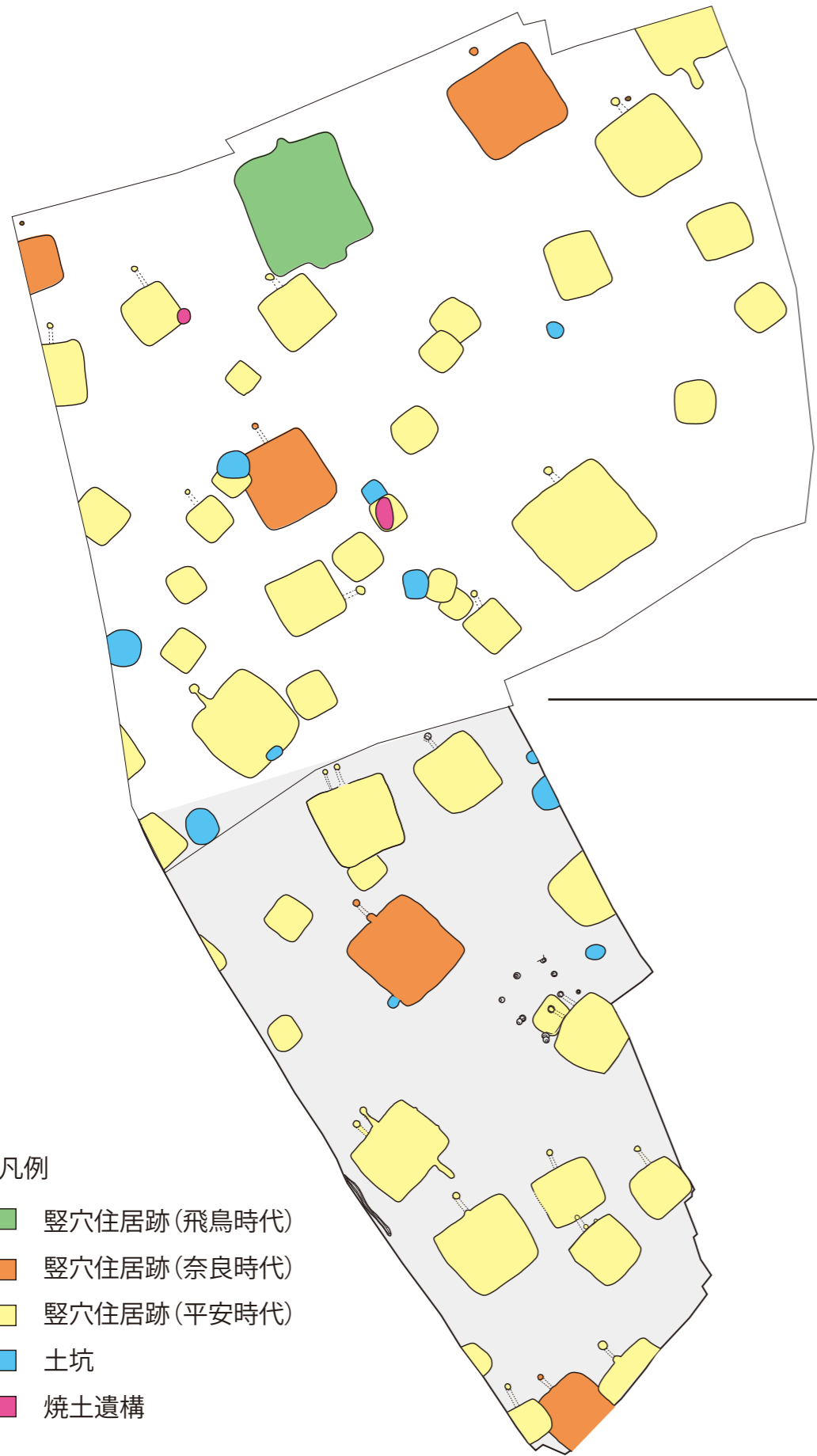
東西約400m、南北約800mの広さがあり、市内の中でも規模の大きい遺跡です。

現在までに47地点の発掘調査が行われており、主に飛鳥・奈良・平安時代の竪穴住居跡・竪穴遺構が130棟以上みつかり、古代の大集落であったことが明らかになっています。



これまで調査を行った場所(田面木遺跡内)

【田面木遺跡遺構配置図】



27年度調査区(47地点)

26年度調査区(43地点)

- 凡例
- 竪穴住居跡(飛鳥時代)
  - 竪穴住居跡(奈良時代)
  - 竪穴住居跡(平安時代)
  - 土坑
  - 焼土遺構

S=1:400

＜主な遺構＞

今回の調査区では、竪穴住居跡・竪穴遺構32棟(飛鳥時代1棟、奈良時代3棟、平安時代28棟)、土坑6基、焼土遺構2基などがみつかりました。

(※昨年度調査 竪穴住居跡・竪穴遺構 21棟、焼土遺構2基、土坑5基、溝跡1条など)

竪穴住居の数は、飛鳥時代か奈良時代にかけて多くなり、平安時代に飛躍的に増加しています。ここから、飛鳥時代に人びとが住み始め、奈良時代まで徐々にその数を増やし、平安時代には大きな集落となっている様子がわかります。

【各時代における竪穴住居跡の例】



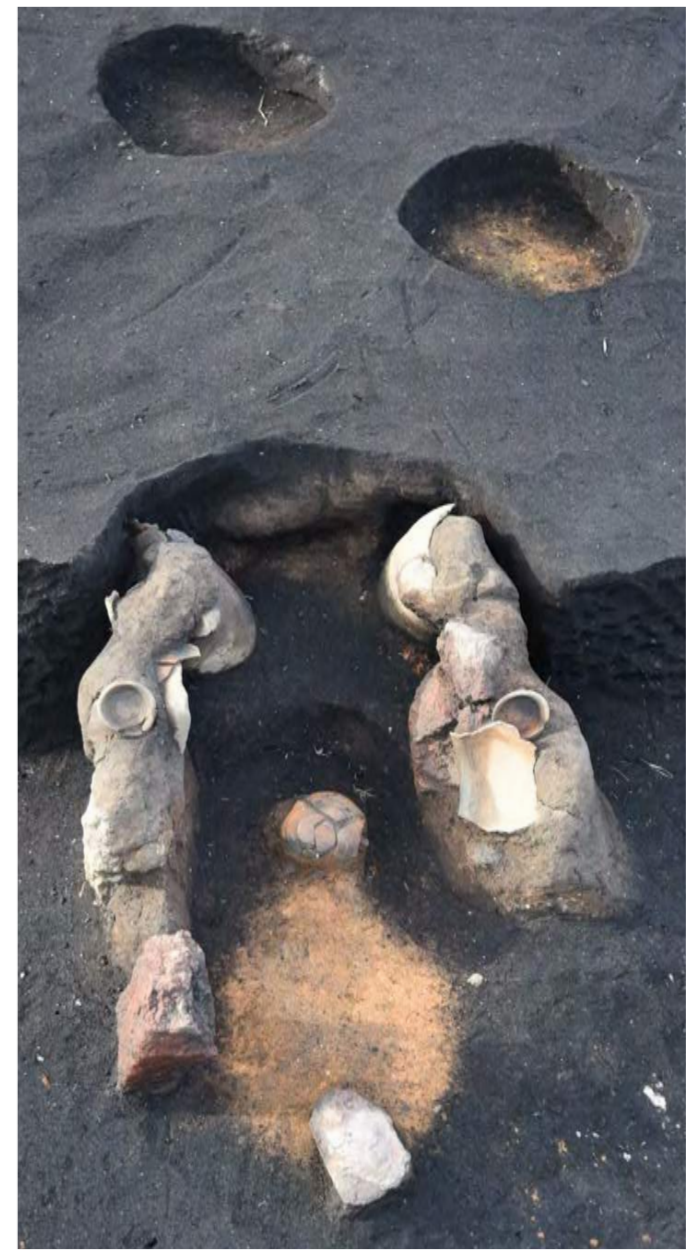
飛鳥時代



奈良時代



平安時代



【竪穴住居跡内のカマド(平安時代)】  
・粘土に石や土器を混ぜてカマドをつくっています。